



きした敬 木下げいじ県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043(227)7411

安房地域の農業の現状を訴え!

行政と農協の協力体制を提言 県、観光と連携した農業施策を



一般質問の壇上から安房地域振興を訴える木下県議

高齢化が進展し、多くの地域課題を抱える南房総市・安房郡選出の木下敬二(きした・けいじ)県議は、昨年9月議会に続いて、2月定例会県議会でも一般質問に登壇しました。また、予算委員会でも質問に立ち、本会議場での質疑と合わせ、農業、水産業を中心として、地域が直面する諸課題を取り上げ、森田知事ら県執行部に対し、一層の南房総・安房地域の振興策を訴えました。

2月定例会県議会 一般質問

耕作放棄地の発生抑制を

木下議員 千葉県の耕作放棄地は、昭和60年に比べて平成22年には5・7倍と急激に増加しており、大きな課題になっています。その発生要因は、「高齢化・労働力不足」が最も高く、「農地の引き受け手がない」など、地域内の耕作者減少も大きな要因です。

耕作放棄地は周りの環境に悪影響を及ぼし、一度耕作をやめてしまうと、農地の原型を失うほど荒れてしまい、復旧するには大変な時間と労力がかかります。このため、国や県も積極的に耕作放棄地対策に取り組んでいます。また、農水省が、すでに耕作放棄地になつてしまった農地の復旧が中心となつていくように思うが、県はどのように考えているのか。

周年出荷可能な品目で

木下議員 農業の担い手のいない安房地域の現状を、県はどのように考えているのか。

農水産部長 安房地域は、温暖な気候を利用した花卉・野菜・果樹などの園芸農業が盛んであるものの、中山間地域であるため、地形的な制約から小規模農家が多く、他地域より農業従事者の高齢化や担い手の減少が進んでいる状況です。そこで県は、産地における担い手の確保・育成や集落営農を推進するとともに、直売所にも適した周年出荷が可能な品目の選定など、

小規模農家や高齢者を含め、農業者がいきいきと農業に取り組めるよう地域の実情にあつた対策を講じていくつもりです。

行政と農協の協力体制

木下議員 農業者の高齢化が進んでいますが、安房地域は特に高齢化率が高い地域です。中でも、農業者の高齢化率をみると、平成22年度の65歳以上の農業者の割合は、66%と非常に高くなつています。その平均年齢は67・8歳です。

農業者の高齢化を踏まえ、行政・農業団体が地域農業を支援するため、もっと踏み込んだ協力体制を構築し、農家の状況に応じた支援を行える仕組みが必要と考えるがどうか。

農水産部長 これまで、市町村、農協等関係団体と連携して、課題解決に取り組み法人の設立などを支援してきたところ、担い手の少ない地域では、農協自らが農業経営を行う法人を設立・運営する事例も生まれてきております。

南房総市において、市と農協が資金と人材を出し合

い、ワンストップで担い手育成や農地の利用集積、農地の保全などの地域の課題に機動的に対応できる新たな法人の設立に着手しているところです。

県としても、地域農業を支える注目すべき取り組みとして、地元の活動に役立つ情報の提供など、今後とも積極的な支援を行ってまいります。

お知らせ
木下県議の一般質問は、県議会のホームページ上の「議会中継(録画)」から、すべての質疑をご覧いただけます。

●県政や南房総市・安房郡のご相談をお気軽にお寄せください……

木下げいじ 県議事務所
〒295-0005 南房総市千倉町牧田164-1
TEL.0470 (44) 4111
FAX.0470 (44) 4112

●木下げいじ公式ホームページ=http://kishitakeiji.com/ ●Eメール=info@kishitakeiji.com

水産振興は結果の見える方策を!

知事「産地取引の活性化が重要」

木下議員 水産資源の長期低迷など、水産業の先行きに不透明感が増していく中で、漁業を核とする安房地域の将来に重大な危惧の念を抱かざるを得ません。

水産業近代化のために、これまでの県の努力は多く、するところではあります。が、厳しい状況に直面している地域社会にとっては、結果の見える実践的な方策が講じられることが必要です。そこで伺います。水産物の産地市場価格の向上を図るため、今後どのように流通面の改善に取り組んでいくのか。

森田知事 産地市場価格を向上させるためには、産地水産物の品質向上や販路の多様化などとともに、水揚物を集約して入札の機会を増やすなど産地取引を活性化していくことが重要です。

このため、県では①水揚げされた水産物の品質・衛生管理の向上対策②ブランド化の推進による県産水産物の魅力発信③朝揚げ水産物の直送や直売所の活用などによる販路の多様化などを進めております。

また、水産物産地市場の多くは、取引規模が小さいことから、小規模な市場を

統合して取扱量の増加を図り、価格形成力を強化するなどの取り組みを推進しているところです。

業協同組合では、産地市場の拠点化を柱とした経営改善に取り組みしておりますが、地元のさまざまな利害調整で大変苦労しているところ

です。地元だけではやりにくいという側面があり、市場業務の合理化に向けた利害調整に、是非とも県の指導力を発揮していただければ幸いです。



自席から地域の課題を熱く訴える木下県議

未利用水産物の利用高度化

木下議員 地域には未利用、低利用の水産物が数多く存在すると考えるが、それらの利用高度化をどのように図っていくのか。

農林水産部長 大量に獲れるものの、消費者に馴染みがなく、十分に利用されていない水産物を有効に活用し、付加価値を高め、漁

業収入を増やしていくことは重要であり、県は、カタクチイワシなどの給食素材や魚しょう油への利用など、新たな加工技術の開発に取り組んできました。

昨年度からは、水産総合研究センターで①ゴマサバを刺身用として利用するための冷凍加工技術の開発②

2月定例県議会 一般質問

水産研究センターで、同僚県議と一緒にゴマサバをシャベットにしました。大変美味しかったです。こういうもの

障害者施設の必要性を訴え

は、ぜひ研究センターを進めていただき、一般に出来るようにしてもらいたいように望みます。

木下議員

南房総市、館山市、安房郡では、身体障害者のための入所施設がありません。東

北3県の沿岸自治体の障害者の死亡割合が、住民全体の2倍になっていたという事実は、障害者を守る方策が機能していなかったことを物語っています。

災害弱者である障害者のための避難所や入所施設が必要だと思いが、県はどのように考えているのか。

健康福祉部長 大規模災害に際して、在宅の障害者も含め、障害のある方が安心して避難できる場所の確保は重要だと考えています。

一方、昨年3月末時点で、各市町村が指定している障害者用の福祉避難所は8カ所にとどまり、一部の地域に偏在している状況です。また、東日本大震災の災禍を踏まえ、障害のある方へ

南房総市への整備を検討

木下議員 南房総市域で設置を希望する方がいるとすれば、県の見解はどうか。

健康福祉部長 国は、障害のある方が、住みなれた地域で障害のない方と同じような暮らしを送れるよう、グループホームやケアホームの整備を進めているところです。

このための施設の整備については、グループホーム等での対応が困難な重症心身障害児の支援を行う場合など、真に必要と判断されるものに限りとしています。

県としては、こうした国の施設整備方針や、今後の障害者自立支援法の改正の動きも踏まえ、地域の特性や利用者のニーズを十分把握し、関係市町村や関係者とも話し合いながら、南房総市域における障害のある

の情報伝達、避難誘導、避難所での生活支援等について、さまざまな課題が指摘されています。

そこで県では、来年度から災害時に避難所で障害のある方等の受け入れができるよう、入所施設の機能を活用し、広域的な支援拠点としての施設整備を図ることとしていきます。

災害弱者でもある障害者のために、入所施設の整備を促進し、県としても積極的に国に関わって意見を言ってもらいたい。

毎月、県政の動きはもとより、私の政策提言等機会あるごとに県政報告を更新していきますので、随時クリックしてください。

検索 **木下けいじの公式ウェブサイト**
<http://kishitakeiji.com/>

木下けいじ県議 PROFILE

■ 略 歴 ■

- 昭和23年5月 旧千倉町生まれ
- 昭和46年3月 日本大学経済学部卒業
- 平成7年3月 千倉町議選当選
- 平成13年4月 千倉町長選当選
- 平成19年4月 県議選当選
- 平成23年4月 県議選再選

■ 経 歴 ■

- 県議会 農林水産常任委員会委員長
- 元総務常任委員会委員長
- 元健康福祉常任委員会副委員長